

現代社会（プリントNo.2）

年	組	番	名前
---	---	---	----

テーマ～環境

2 人間の活動と環境問題（2）

（1）熱帯林の減少と砂漠化

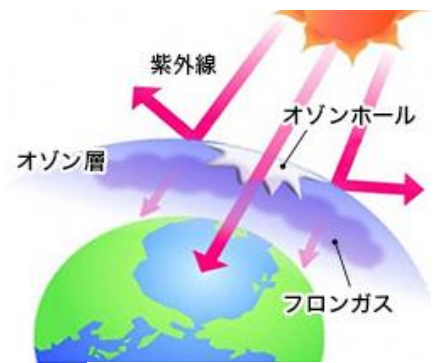
- ・ ① の減少は、吸収される二酸化炭素の量が少なくなるため、地球温暖化の原因の一つになると同時に、野生動物の種の絶滅や生態系の破壊などの危険性も伴っている。
- ・ 砂漠周辺の土地が、いっそう乾燥して農業などの社会生活が営めなくなる ② も深刻になってきている。

（2）大気汚染と酸性雨

- ・ ヨーロッパでは 1950 年代から ③ の問題が認識されてきた。
- ・ ④ は、化石燃料を燃やすことによって発生する硫黄酸化物や窒素酸化物が大気中の水蒸気と化学反応することで雨水の酸性が強くなりすぎる雨水をいう。

（3）オゾン層の破壊

- ・ 有害な紫外線を防いでいるオゾン層が ⑤ などによって破壊されることで生じる ⑥ の拡大は、皮膚がんなどへの影響が懸念されてきた。
- ・ これに対して、1987 年には国際会議が開催され、⑦ 議定書）が採択されて、過剰な生産や消費を規制するなどの環境対策がとられるようになった。



「日本オゾン医療・審美学会」HP より

（4）生物の多様性とその保全

- ・ 多様な生物とそのバランスで成り立つ生態系に対しては、1992 年に多様性の保全や持続可能な利用などを目的とした ⑧ 条約）が採択された。

3 地球環境問題に関する国際的な取り組み

（1）環境問題と国際会議

- ・ 1972 年 第 1 回 ⑨ 会議）がストックホルムで開かれ、⑩ 宣言）が採択された。
- ・ 1992 年 国連環境開発会議（＝⑪ ）がリオデジャネイロで開かれ、将来の世代が求めるものを満たしつつ、現在の世代の求めるものも満たしていこうとする「⑫ な開発」の理念の下、環境と開発の両立についても議論された。

（2）気候変動をめぐる条約

- ・ 1992 年の地球サミットでの気候変動枠組条約 ⑬ 条約）によって、国際的な枠組みで温室効果ガスの排出量を削減すべきことが合意にいたった。
- ・ 1997 年の地球温暖化防止京都会議で、⑭ ）が採択され、2005 年に発効した。これには、排出権取引や ⑮ ）などの京都メカニズムの活用も認めている。
- ・ 2015 年には新たな枠組み「⑯ 協定）」が採択された。